

わがLOMの  
シニアクラブ

田川JC  
[福岡]

# 現役の事業に積極的に参加 熱い「川筋魂」持つOB会



ゴルフコンペにて

日本近代産業発展の原動力となった石炭の産出地であった筑豊炭田は、明治中期から日本有数の石炭産地としてクローズアップされ、仕事を求めて全国から移住者が訪れて活気を呈していました。明治33年、三井田川鉱業所が設立されると、移住者はさらに倍加し、炭坑のまち・田川は大きく発展していったのです。

大正6年には、全国の出炭量2290万トのうち筑豊炭田が1148万トを産出し、なんと全国出炭量の50%を占めるまでになっていました。石炭産業が隆盛期にあった昭和18年、伊田町と後藤寺町が合併して田川市が誕生しました。

そんな田川市・田川郡を活動エリアとして、昭和37年に田川JCIが創立され、平成17年で43周年を迎えることとなりました。

**田川** JCOB会は、総勢93名の会員で構成されています。会長は2年に一度の選出となります。今年は笹原義正さんを会長に活動しています。

そんなわがJCOB会は、活動としては年1回の総会と年4回の例会を行っています。また毎年10月には旧五地区(田川・飯塚・直方・宗像・ひびき)のOB合同例会も開催されています。現役の事業にも積極的に参加し、1月の新春懇親会、4月の現役・OB懇親例会、また12月の現役の卒業パーティーにも参加しています。

毎年、現役野球部との練習試合も重ねており、今年は3回の練習試合を行いました。野球を通じて現役とのつながりを大切にしています。近年では、現役会員の大幅な減少を危惧しており、新規会員の拡大・紹介にも力を入れております。

田川の地では毎年5月に、福岡県の五大祭りの一つに数えられる風治八幡神社の「川渡り神幸祭」が行われています。



2005年1月新春懇親会にて田川JC上田理事長(43代目)と笹原OB会会長



福岡ドームで開催したOB会親善野球大会

本来担ぐべく御輿を、担ぎ手不足のため引いていました。が、本来の姿の、「御輿は担ぐものだ」ということで、今から31年前に第15代の雨矢紀一理事長が「みこしをかつぐ会」を発足されました。以来、毎年、当代理事長をはじめとする現役にも参加してもらっています。そんな熱い「川筋魂」を持ったわが田川JCOB会を、誇りに思います。

日本JCIシニア・クラブ

九州地区担当世話人 西座聖樹